



愛川ふれあいの村5月の風景

平成28年5月 自然のたより

5月晴れが続いた上旬。澄み渡った空と濃い緑が春から初夏へと移り変わっていることを物語っています。鳥も繁殖期に入り、オスとメスが共に行動していたり、オスがメスを追いかけて求愛活動をしている姿も見られます。たくさんの種類のチョウも花の所へ蜜を吸いに飛んできています。



アゲハチョウ



ツツジとミツバチ



エナガの給餌行動



イサを啜えているムドリ



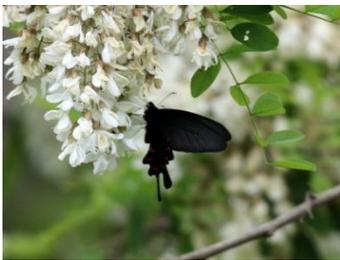
吸蜜しているアサギアゲハ



アカボシゴマダラチョウ



コクワガタ



ジャコウアゲハ



求愛行動中のキビタキ



アカタテハ



巣材を集めているスズメ



脱皮直後のヨヅサカメ



オニグルミの成り始め



ユキノシタ



キビタキの給餌

◆名に秘めた思い◆

～ミヤコフスレ～

『いかにして契りおさけむ白菊を都忘れと名づくるも憂し』

この歌は、鎌倉幕府の討幕を掲げた承久の乱で、佐渡島に配流された順徳上皇が歌いました。この歌の主役が「都忘れ」という変わった名前の可憐な花です。宮中で優雅な生活から一変した佐渡島での生活を送った順徳上皇。心慰めてくれたのは、当時白色に咲いていた「都忘れ」でした。

「この美しい花を見ていると、都のことを忘れる事ができる」と傷心の慰めの歌を歌い、その思いからついた花言葉は「しばしの憩い」「別れ」と少し物寂しくも感じます。

こうして名の由来や花言葉を知ると、一見可愛らしく華やかなお花も、物寂しいたたずまいに見えてきます。人の名前もそうですが、こういった「名前の由来」には、さまざまな人の気持ちが込められ、思いが表現されています。その思いを知ることで、見方が変わることもあります。第2の自分を映し出すキャンプネームのように、その名前にはその人にしか分からない思いが秘められていることもあります。そんな思いが込められた名前がつけられたものには、皆さんはどんな名前が思い浮かぶでしょうか。

順徳上皇は、歌道と仏道に打ち込み、21年間という歳月を佐渡島で過ごしましたが、最後は46歳という若さで崩御しました。それから約750年経った今でも、その花の名から順徳上皇の思いは現代に伝わっています。

その花や出来事や物に込められた、何年経っても変わらぬ思い。その思いを他の誰かが知ることや伝えることで、その思いはこれからも生きていきます。これだけ経っても繋がれている思いがあるからこそ、今があるのでしょうか。(多田)



▼シロツメクサ▼

ネットで欲しいものが買える、便利な世の中になりました。しかし、その一方で小さな荷物が大きな段ボールに入っているという、荷物の『過剰包装』に一度は遭遇したことがあるのではないのでしょうか。

「四葉のクローバー」として馴染み深い「シロツメクサ」。江戸時代に海外から輸入されるガラス製品を保護するために、乾燥させたシロツメクサを箱の中に敷きつめたことから「白詰草」と名前を付けたようです。昔だからこそその商品を保護する方法かもしれません。

しかし、段ボールを開けて、花が見えたり匂いが広がったりすると、贈り物もより素敵に見えるかもしれませんね。(鷲山)



★旬のお知らせ：ビワ★

ビワの果実は5月～6月にかけて旬を迎えます。甘くて瑞々しく美味しいことが特徴です。

ビワは果物として美味しいだけでなく、ビタミンAが豊富で、皮膚や粘膜、消化器官を正常に保つ働きがあります。また、ポリフェノール的一种である、クロロゲン酸も含んでいるため、がん予防やウイルス疾病予防に効果があると期待されている成分もあります。

さらに、ビワの果実だけでなく、種を焼酎漬けにしたり、葉を乾燥させてお茶にして飲んだりすることで、健康を維持することが可能になります。適量を摂取して、健康を維持していけたら良いですね。(大瀧)



◎六月の

注目ポイント◎

神奈川県の花である「ヤマユリ」。花自体の大きさは20cm程と大きく、大人の手の平よりも大きいので、とても見応えがあります。

実はこのヤマユリ、栽培が非常に難しく、ウイルスにも弱いのです。ですが、健全に管理された環境下では、本来持っている繁殖能力や生活形態のたくましさが見られます。

さらに日本には、ヤマユリを含むサクユリ、ササユリやオトメユリなど、日本の固有種は約八種あると言われています。しかし、見た目が華やかで貴重な花であることから、野山に生えているユリを球根から掘られ、持ち帰られてしまう、というユリもあります。

「一輪くらい大丈夫」という軽い気持ちで、その種を絶滅に追いよつたり、生態系のバランスを崩してしまったり…、ということにもなりかねません。

家で育てたい時には、種や球根から育ててみてください。手間と時間と愛情をかけた分、綺麗な花が咲いた時の感動は人一倍感じることができると思います。(大瀧)



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・多田藍子・鷲山裕・大瀧裕基子

文章：多田藍子・鷲山裕・大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★